

花ちゃん、オー君、フッタ博士のかくかくドキドキ立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成29年1月26日 NO.85 (385)

オー君 「見て見てフッタ博士！おみそ汁のアサリの中にこんなカニがいたよ！」

花ちゃん 「私も見たことあるわ。知らずに食べると、口の中がジャリジャリしちゃうね。」

フッタ博士 「よく気づいたね。これは

二枚貝のからの中に住む

『カクレガニ』だよ。『ピン

ノ』とも呼ぶんだ。小さい

けれど、これが成体（大人）

で、貝の餌や栄養をもらい

『寄生』をしながら生きて

いるんだ。今は『パラサイ

ト』の方がわかるかな。貝がらで守られているから、目は退化しているし、

こうらもぶよぶよしてやわらかいんだ。」

オー君 「どうやって貝の中に入るんですか？はさみでこじ開けるには弱そうだし…。」

花ちゃん 「貝が寝ている間に、こっそりすき間から入るとか？」

フッタ博士 「ピンノの生活はわからないことだらけなんだ。おそらく子ガニの時に貝の入

水管から入り、種類により決まった貝に住みつくんじゃないかな。それから、

カキにつくピンノもいるんだよ。」

花ちゃん 「じゃあ、1つの貝に何匹もいることもあるのかしら？」

フッタ博士 「それもナゾ。同時にオス・メス2匹見つかることもあるらしいけど、1匹し

か育たないようだね。オスはメスのいる貝を探して歩くという説もある。」

オー君 「オスはかくれがから出てさがすわけ？危険だなあ。男はつらいよ…。」

花ちゃん 「またまたそれを言う。カニがいたら貝は迷惑じゃないのかしら？」

フッタ博士 「そうだね。貝はカニに栄養を取られてやせてしまうこともある。それでも追い



出されずに住み続けるひけつがあるんだろうね。」

オー君 「カニの子供はプランクトンなんですか？プランクトンってミジンコやアメーバみたいな、けんびきょうで見るような小さい生き物でしょ。」

フッタ博士 「昆虫と同じように、脱皮しながらカニも変態していくんだ。卵からゾエア→メガロパという、ちがう形をした子供時代を過ごす。エビも変わっていく。真水に住むサワガニやザリガニは卵の中でそうした時期を過ごして、いきなり親のミニチュアで生まれてくる。ピンノは貝の中で卵を産み、出水管から海に出してもらおう。ちょっとこれを見てごらん。」

花ちゃん 「あ！ちりめんじゃこですね。ごはんにのせて食べるの大好きです。」

フッタ博士 「ちりめんじゃこ【写真左】やしらすはイワシの子どもだね。よくさがすといういろいろな海の生き物が見つかるよ。タコの子もいるよ【上】。とげがあるのが何かのカニのゾエア【中】、ややカニらしくなったのがメガロパ【中下】。エビかアミの仲間【右】もいたよ。海の流に乗って遠くまで旅をするんだね。【目もりは1ミリ】」

オー君 「ある人ががこういうのを集めて『チリメンモンスター』って呼んでいたよ。フッタ博士！昆虫とエビ・カニは親せき同士なんでしょう？」

フッタ博士 「節足動物という、大きいグループだね。ムカデやクモ、ミジンコもそうなんだ。昆虫は地球上のありとあらゆる

所でくらしているけれど、なぜか海の中にはいないんだ。

エビやカニの天下なんだよ。それから、光の全く届かない深～い海の底、火山が吹き出す養分でくらしているカニもいるんだよ。自然の世界には不思議なことがいっぱいだね。」



ちりめんじゃこをスーパーで買った時、食べる前にちょいとかきわけさがしてごらん。楽しいよ。

※「チリモン」で検索し、図鑑サイトで調べられます。また、チリモン探し用の精選前のちりめんじゃこ通販もあります。